

ばんげい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち
教育の小径創刊号
No.1

今月の花／山茶花(サザンカ)
花ことば／愛嬌、理想の恋、謙虚

今月の「今日は何の日」

- 11月 1日：灯台記念日
- 11月 3日：文化の日
- 11月 7日：立冬
- 11月 9日：全国火災予防運動
- 11月11日：世界平和記念日
- 11月12日：洋服記念日
- 11月15日：七五三
- 11月17日：将棋の日
- 11月23日：勤労感謝の日
- 11月29日：肉の日



北 俊夫先生
国士館大学教授

学ぶ意欲をどう育てるか

- 子どもの学ぶ意欲は、教えても身につかない。教師の言葉かけや資料の提示など、教師の適切な手だてによって育つ。
- 子どものよさや努力の成果を認め、ほめることによって、学ぶ意欲が高まっていく。学習する方向が明確になると、やる気が出てくる。

内発的な動機づけが重要

子どもは外部から何らかの「刺激」を与えると、意欲を示すことがあります。「テストで100点をとったら、〇〇を買ってあげるよ」「もし宿題をやっとなかったら、休み時間をなくしますよ」といった、褒美やバツを与える方法です。

ところが、こうした指導では多くの場合、褒美やバツがなくなると、子どもたちは途端に意欲を喪失してしまいます。学習の目的が褒美をもらうため、バツを与えられないためだったからです。

意欲は与えたり教えたりして育つものではありません。子どもの内面から生み出されてくるものです。子どもた



ちは本来、よりよくなりたいたいという欲求をもっています。それをどう引き出すか。内発的な動機づけをどうするか。ひとえに教師の指導にかかっています。

意欲があるという状態は、単に「跳び箱が飛べるようになりたい」といった、あることができるようになりたいという気持ちをもつだけではありません。それを実現させるために、実際に実行しようとする意思をもつようになることが大切です。

自信とやる気を育てる

意欲を育てるとは、一人一人に自信をつけ、やる気を育てることだといわれています。そのためには、まず進歩の状況や努力の成果を認め、子どもに伝えます。これまでできなかったことができるようになったところを見つけます。分かるようになったことを見だし積極的に評価します。子どもたちは教師から認められることで、これまでの頑張りにより自信をもちます。これがこれからの意欲につながります。

ところが、これからどのようなことに努力するのが明確でないと、実現しようとする意欲は高まりません。教師は、いまの子どもの学習状況を観察して、どこをどのように頑張るとさらによくなるか。次なる課題を見いだし、子どもが納得するように分かりやすく伝えます。

これから何に取り組めばよいかハッキリしてくると、やる気が出てきます。学習の見通しと方向を具体的に示すことがやる気を育てるポイントになります。

意欲を高める授業のポイント

学ぶ意欲を高めるためには、教師が日々の授業において次のような働きかけをします。

- ・子どもたちが既にもっている知識や見方、経験などでは、解釈できないような場面に出会わせます。子どもたちの中にはてな(疑問)が生まれると、それを解決しようとする意欲が生まれます。
- ・授業の導入場面で学習のめあてを示したり、学習計画を立てさせたりします。学習の見通しがもてると、これからの学習への意欲が出てきます。
- ・学習の仕方を指導します。調べ方やまとめ方、考え方を身につけていることは、意欲的に学習するために必要な条件です。

そして、何より重要なことは、なぜ学習するのか。学習する目的を自覚させることです。

子どもたちが、覚えているようで、しっかり身につけていない知識に「47都道府県の名称と位置」があります。

社会科の新学習指導要領には「47都道府県の名称と位置」をしっかり指導することが示されました。これは、子どもたちが47の都道府県の名称とそれぞれの位置を理解していないという実態を踏まえたものです。

この学習事項は4年の「県（都、道、府）の様子」の学習に位置づけられていますが、これには自分たちの住んでいる県（都、道、府）が日本のどこに位置しているのかをとらえさせるためです。

「47都道府県の名称と位置」を身につけさせるには、日本の白地図を活用して、作業的な活動を取り入れるようにします。都道府県名を使ったクイズをつくり、答えさせることも効果的です。

授業を構成する要素の一つに「板書」があります。板書とは、授業中に教師が黒板に記述したり資料などを掲示する活動をいいます。子どもたちが板書に参加することもあります。板書が計画的でなく、構造的でないといった指摘があります。

板書は、子どもたちに思考をうながし、理解を深めさせるうえで重要な働きがあります。「もう一つの教材」といえます。

板書で重要なことは、本時のめあてを記入すること、子どもたちの発言を要約し大切なこと（キーワード）は色チョークで書くこと、矢印を効果的に書き入れ、事象（用語）間の関連性を明確にすることなどです。

一単位時間に授業の進行とともに一つの板書を完成させます。通常は途中で消したりしません。事前に「板書計画」を立てておくことが大切です。これは授業に対するイメージトレーニングにもなります。



教育キーワード 移行措置

平成20年3月に告示された学習指導要領は、小学校において平成23年度から完全実施されます。それまでは、現行の学習指導要領が効力をもっています。平成21年度と22年度は移行期間です。これは、23年度からの完全実施に円滑に移行できるように設けられているもので、この期間には現行の学習指導要領によらないことができる「特例」が

示されています。これが移行措置です。移行期間が充実したものになるかどうかは、平成23年度からの学校教育を左右する重要な意味をもっています。平成21年度と22年度には、特例措置を踏まえて、すべての教科等において、各年度の年間指導計画を作成することが求められます。この作業は本年度中に終えておかなければなりません。



参考になる資料に、『社会についての基礎的知識の習得に関する調査』（財団法人総合初等教育研究所、2008年3月）があります。

学級通信に使える今月のイラスト



合唱コンクール

落ち葉集め

編集後記

国士館大学教授の北俊夫先生に執筆していただき、「教育の小径」を毎月発行していきます。これから現場の先生に役立つ内容で情報提供していきたいと思えます。ファイリング（専用ファイルあります）していただければ幸いです。（K記）

Information (PR)

移行期の指導計画作成に役立つ 算数・理科 21・22年度

わかる 移行措置 単元の展開例と評価規準

単元	3年	3位数に2位数をかける乗法
単元目標	3位数に2位数をかける乗法に活用	
学習の目標	3位数に2位数をかける乗法に活用	
学習の目標	3位数に2位数をかける乗法に活用	
学習の目標	3位数に2位数をかける乗法に活用	

算数・理科の追加単元・追加内容の展開例と評価規準を満載！

算数・理科の移行措置はこの1冊でOK!

- ▶ A4判・本文2色・96ページ
- ▶ CD-ROM付 (データの書き換えができます)
- ▶ 定価 1,400円 (税込)
- ▶ 企画・編集 ぶんびい教育研究所
- ▶ 発行 株式会社文溪堂